

Part 1

STUDY UNIT 1 FILING REQUIREMENT 申告義務

GLEIMテキスト問題集 計29問ランク内訳

A13問(44.8%) B13問(44.8%) C3問(10.4%)

- 1-1 Preliminary Work to Preparer Tax Returns**
(申告書作成のための準備)
- 1-2 Filing Status**
(申告資格)
- 1-3 Filing Requirements**
(申告義務)
- 1-4 Dependents**
(扶養家族)
- 1-5 Returns of Dependents**
(扶養家族の申告)
- 1-6 Nonresident and Dual-Status Aliens**
(非居住外国人・二重資格を有する外国人)

SU1-Q2**1-1. Preliminary Work to Prepare Tax Returns****Bランク**

Which taxpayer information is necessary to have before preparing a tax return?

- A. Immigration status.
- B. Age of an individual.
- C. Marital status.
- D. All of the information is needed.

<メモ> EA試験では、納税者の立場ではなく「申告書作成者」としての立場から問題を解く必要がある。

<演習履歴> ○△×

SU1-Q2**Answer(D) is correct.****出題トピック: 納税者の基本情報****Point !****申告書作成のための準備 (preliminary work)**

申告書作成業務を行うために、納税者から下記を入手する。

- ① 納税者の過年度の申告書
- ② 納税者の基本情報

- ・生年月日 (date of birth) と 年齢 (age)
- ・婚姻状況 (marital status)
- ・扶養家族 (dependents) の有無
- ※ 社会保障番号(SSN)
- 個人納税者識別番号(ITIN) ←SSN取得資格がない外国人の場合
- 養子手続過程の納税者識別番号(ATIN)

- ・国籍 (citizenship)
 - ・米国滞在状況 (immigration status)
- ③ 所得税申告に必要な書類 ※必要書類リストは補助レ巻末資料:フォーム集(F-4ページ)。
例: Form W-2(給与所得の源泉徴収票)、1099-INT/DIV(利子/配当等の支払調書)

<ポイント解説>

選択肢(A)(B)(C):すべて納税者から入手すべき情報である。∴**選択肢(D)**が正解。

Point !		1-2. Filing Status	
Filing Status (申告資格) = 5種類の申告する形			
申告資格は、 課税年度末(暦年課税年度採用の場合12/31)の時点 で法的に結婚しているかどうかで、2つに大別される(※但し、配偶者の死亡年度・みなし独身の特例あり)。申告資格に応じて、適用される税率表や標準控除額 (standard deduction) 等が異なる。			
既婚者	(1) Married Filing Jointly: MFJ / Joint Return (夫婦合算申告) 課税年度末に結婚している夫婦が所得を合算して申告する形。 (Married at Y/E, NOT divorced 離婚, legally separated 法的別居) 片方にしか所得がない場合および一般的にはMFJを選択したほうが有利となる。 ※特例: 配偶者の死亡年度は、MFJ可。 (注): MFJを用いる場合、両者がsame taxable year (課税年度) でなければならない。 但し、same accounting method (現金主義、発生主義) を用いる必要はない。		
	(2) Married Filing Separately: MFS / Separate Return (夫婦個別申告) 課税年度末に結婚している夫婦がそれぞれ個別に申告する形。 片方の配偶者にしか所得がない場合でも、MFS可。 (注): MFSを用いる場合、両者がsame way (itemized or standard ded.) でなければならない。 (注): コミュニティ・プロパティ州居住の場合、夫婦合算所得を50:50に分割し個別申告を行う。		
独身者	(3) Qualifying Widow(er) / Surviving Spouse (適格寡婦(夫)) ＜適格寡婦(夫)の主な要件＞ ① 配偶者と 死別 し、課税年度末の時点で独身であること。 配偶者の死亡年度の翌年とその次の年の 2年間 に限り、用いることができる。 ② 当課税年度の『 1年間 』、扶養家族である『 子供 』(※継子・養子・孫を含む。但し、里子を除く。)と同居しており、家計維持費の50%超を負担していること。		

Point !		1-2. Filing Status									
独身者 (続き)	(4) Head of Household: HOH (特定世帯主) ＜特定世帯主の主な要件＞ ① 課税年度末の時点で独身(※特例: みなし独身も含む)であり、Qualifying Widow (er)に該当しない。 ② 当課税年度の『 半年 』超の期間にわたり、扶養家族である『 親族(3親等以内の親族) 』(※里子も含む。)と同居しており家計維持費(※食住のみ)の50%超を負担していること。但し、 扶養家族である親とは同居している必要はない。										
	<table border="1"> <tr> <td>親</td> <td>◎ 扶養家族 (dependent)</td> <td>× 同居不要 例: 老人ホーム</td> </tr> <tr> <td>子供</td> <td>◎ 扶養家族 (dependent) 【※注】</td> <td>◎ 『半年』超同居</td> </tr> <tr> <td>その他の『親族』</td> <td>◎ 扶養家族 (dependent)</td> <td>◎ 『半年』超同居</td> </tr> </table> <p>【※注】未婚の子供の場合、適格子供 (“qualifying child”: CARES) の要件を満たしていれば、納税者の扶養家族 (dependent) でなくても構わない。 例: 数年前に離婚した母親が12歳の適格子供を養育している。母親は、父親から養育費を受領しているため、その子供を扶養家族として申告する権利を放棄した。元夫(父親)は、“Single (単身者)”を用い、その子供を扶養家族として申告した(子供税額控除: child tax credit を用いた)。この状況であれば、母親は適格子供との “Head of Household” を選択可。</p>	親	◎ 扶養家族 (dependent)	× 同居不要 例: 老人ホーム	子供	◎ 扶養家族 (dependent) 【※注】	◎ 『半年』超同居	その他の『親族』	◎ 扶養家族 (dependent)	◎ 『半年』超同居	
親	◎ 扶養家族 (dependent)	× 同居不要 例: 老人ホーム									
子供	◎ 扶養家族 (dependent) 【※注】	◎ 『半年』超同居									
その他の『親族』	◎ 扶養家族 (dependent)	◎ 『半年』超同居									
	(5) Single (単身者) 年度末に独身または法的別居状態にある者で、他のどの申告資格にも該当しない者。										

SU1-Q5

1-2. Filing Status

Aランク

John and Linda Smith are a childless married couple who lived apart for all of the current year. On December 31 of the current year, they were legally separated under a decree of separate maintenance. Based on the facts, which of the following is the only filing-status choice available to them for the current year?

- A. Married filing joint return.
- B. Married filing separate return.
- C. Head of household.
- D. Single.

SU1-Q5

Answer(D) is correct.

出題トピック: 申告資格の選択

<ポイント解説>

既婚者	(1) Married Filing Jointly: MFJ / Joint Return (夫婦合算申告)
	(2) Married Filing Separately: MFS / Separate Return (夫婦個別申告)
独身者	(3) Qualifying Widow(er) / Surviving Spouse (適格寡婦(夫))
	(4) Head of Household: HOH (特定世帯主)
	(5) Single (単身者)

John氏とLinda氏は、**12/31の時点で法的別居 (legally separated) の状態**にあり、夫婦のステータスを用いることはできない。
扶養家族である子供(親族)がないため、各自“Single(単身者)”として申告を行う。
∴ **選択肢(D)**が正解となる。

選択肢(A)(B):

12/31に法的に結婚している夫婦であれば、MFJまたはMFSのいずれかを選択可。
一般的には、MFJを選択したほうが有利となる。

選択肢(C):

扶養家族である子供(親族)がないため、Head of Householdには該当しない。

Lisa was married with two dependent children in 20X1. Her husband died in April, and she did not remarry before the end of 20X1. Which filing status should Lisa use for her tax return in 20X1?

- A. Single.
- B. Married Filing Jointly.
- C. Head of Household.
- D. Qualifying Widow(er).

出題トピック: 配偶者の死亡年度

<ポイント解説>

配偶者の死亡年度は、特例として、死亡した配偶者とのMFJを用いることができる。
 ∴ 選択肢 (B) が正解となる。

Point ! 配偶者と死別 または離婚 (法的別居) した独身者の場合

	X1年	X2年	X3年	X4年
死別	MFJ	Qualifying widow(er) 2年間		HOH OR Single
離婚 (法的別居)	HOH OR Single	→		

HOH: みなし独身の特例あり
 = その配偶者と年度の後半6ヶ月間別居している場合、独身としてみなす。

SU1-Q4

1-2. Filing Status

Bランク

Which of the following is NOT a requirement that must be met in determining whether a taxpayer is considered unmarried for head of household filing-status purposes?

- A. An individual must file a separate return.
- B. An individual must pay more than one-half the cost of keeping up a home for the tax year.
- C. An individual's home must be, for the entire year, the main home of his/her child, stepchild, or adopted child whom (s)he or the noncustodial parent can properly claim as a dependent.
- D. An individual's spouse must not have lived in their home for the last 6 months of the tax year.

SU1-Q4

Answer (C) is correct.

出題トピック: 特定世帯主(みなし独身)

<ポイント解説> 以下より、**選択肢(C)**が正解となる。

Head of Household 特定世帯主の要件	① 課税年度末の時点で独身(※ みなし独身 も含む)であり、Qualifying Widow (er)に該当しない。 ② 当課税年度の『 半年 』超の期間にわたり、扶養家族である『 親族(3親等以内の親族) 』と同居しており 家計維持費(※食住のみ)の50%超 を負担していること。
--------------------------------------	--

Point !

みなし独身

みなし独身規定とは、子供がいる納税者が、**課税年度末の時点で法的には結婚している状態にあるにもかかわらずMFSを選択せざるを得ない状況**にあり(配偶者からMFJのための署名をもらえない状況にあり)、**その配偶者と年度の後半6ヶ月間別居**している場合、独身としてみなすという規定である。当規定は主に配偶者と別居中の母子(父子)家庭を想定したもので、その他の要件を満たしていればHead of Householdを用いることを認めている。なお、もう一方の配偶者は、MFSを用いることになる。
 <参考> MFJを用いる場合には、申告書上、夫婦2人の署名が必要である。
 なお、MFJを用いた場合、未納税額等に対し夫婦が連帯責任を負う(但し、無責配偶者(*innocent spouse*) 規定により、連帯責任から救済されることもある)。

SU1-Q3

1-2. Filing Status

Aランク

Which of the following is NOT a requirement you must meet to claim head of household filing status?

- A. Your spouse did not live in your home during the last 6 months of the tax year.
- B. You paid more than half of the cost of keeping up your home for the entire year.
- C. Your home was the main home of your foster child for the entire year.
- D. You are unmarried or considered unmarried on the last day of the year.

SU1-Q3

Answer (C) is correct.

出題トピック: 特定世帯主 (同居の要件)

<ポイント解説> 特に同居の要件の比較がポイントとなる。※いずれも“一時的な別居”規定適用。

Qualifying Widow
適格寡婦 (夫)

納税者は、当課税年度の『1年間(Whole year)』、扶養家族である『子供』(※継子・養子・孫を含む。但し、里子を除く。)と同居しており、家計維持費の50%超を負担していること。

『子供』	◎ 扶養家族 (dependent)	◎ 『1年間』同居
------	--------------------	-----------

Head of Household
特定世帯主

納税者は、当課税年度の『半年(Half year)』超の期間にわたり、扶養家族である『親族(3親等以内の親族)』(※里子も含む。)と同居しており、家計維持費の50%超を負担していること。但し、扶養家族である親とは同居の必要はない。

親	◎ 扶養家族 (dependent)	× 同居不要 例: 老人ホーム
子供	◎ 扶養家族 (dependent) 【※注】 当p.9参照	◎ 『半年』超同居
その他の『親族』	◎ 扶養家族 (dependent)	◎ 『半年』超同居

∴ Head of Householdにおいては、1年間(entire year / whole year)ではないため、**選択肢(C)**が正解となる。

Phil is unmarried in 2018. His dependent daughter, Susan, lived with him all year. Property taxes of \$2,500 and mortgage interest of \$5,000 on the home where he and Susan live are divided equally with his ex-wife. Phil paid the utilities of \$200 per month. What amount may Phil use as the costs of keeping up a home to qualify for head of household filing status?

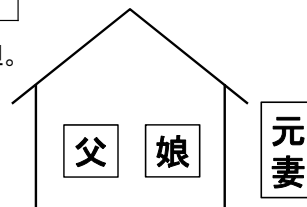
- A. \$6,150
- B. \$4,950
- C. \$3,750
- D. \$9,900

出題トピック: 特定世帯主(家計維持費の50%超)

<ポイント解説>

「家計維持費」に含まれるもの 食・住のみ	含まれないもの 衣・その他
固定資産税	衣料費
住宅担保ローンの借入利息	教育費
賃借料	医療費
水道光熱費	生命保険料
住宅の修繕維持費	交通費
住宅の保険料	休暇費用
食費	納税者・扶養家族による役務提供の価値

自宅の固定資産税と借入利息は、元妻と半分ずつ負担。
 ∴ Head of Household の要件を満たしているかどうかを判断する上でPhil氏が負担した家計維持費は、
 $(\$2,500 \text{固定資産税} + \$5,000 \text{借入利息}) \times 50\% + \$200 \times 12 \text{ヶ月水道光熱費} = \$6,150$
選択肢(A)が正解となる。



SU1-Q10

1-3. Filing Requirements

Cランク

Mr. Todd, who is 43 years old, had lived apart from his wife since May 2018. For 2018, his two children, whom he can claim as dependents, lived with him the entire year, and he paid the entire cost of maintaining the household. Assuming that Mr. Todd cannot qualify to file a joint return for 2018, he must, nevertheless, file a return if his gross income is at least

- A. \$5
- B. \$24,000
- C. \$12,000
- D. \$18,000

SU1-Q10

Answer(D) is correct.

出題トピック: 申告義務

Point !	申告義務	注意点
<p>≪原則ルール≫ 原則として、納税者のGI ≥ Basic standard deduction の場合、申告義務が生じる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・例外: MFSを選択する場合には、納税者のGIが\$5以上である場合、申告義務が生じる。 ・Additional standard deductionは、「65歳以上の高齢者」が対象となる追加控除額のみ含める(※MFSを除く)。 ※ 自営業者の場合には、左記の原則とは別に、自営業からの所得(純利益)が\$400以上ある場合申告義務が生じる。 ※ 扶養家族(dependent)の場合も、左記の原則とは別に、不労所得を基準とした申告義務の規定がある。

暗記	2018 Filing Status	Standard Deduction	申告義務	Additional Standard Deduction
	Married Filing Jointly	\$24,000	\$24,000	\$1,300
	Qualifying Widow(er)	\$24,000	\$24,000	\$1,300
	Head of Household	\$18,000	\$18,000	\$1,600
	Single	\$12,000	\$12,000	\$1,600
	Married Filing Separately	\$12,000	例外\$5	\$1,300

＜ポイント解説＞ Mr. Toddは、**Head of Household**の要件を満たす。Head of Householdの申告義務(2018)は、**\$18,000**以上である。 **選択肢(D)**

In which of the following situations is no return required to be filed for 2018?

- A. Single, filing status single, under age 65, gross income \$18,000.
- B. Married, joint filing status, both spouses under age 65, gross income \$29,000.
- C. Single, filing status single, age 70, gross income \$13,200.
- D. Married, separate filing status, age 65, gross income \$10,000.

出題トピック: 申告義務

<ポイント解説>

選択肢(A): Singleの申告義務(2018)は
 $\$12,000 < GI \$18,000$

選択肢(B): MFJの申告義務(2018)は
 $\$24,000 < GI \$29,000$

選択肢(C): Singleで65歳以上の申告義務(2018)は
 $\$12,000 + \$1,600 = \$13,600 > GI \$13,200$
∴ 選択肢(C)が正解となる。

選択肢(D): MFSの申告義務(2018)は
常に\$5 < GI \$10,000

SU1-Q14

1-3. Filing Requirements

Bランク

Which of the following statements is true regarding the filing of a Form 4868, *Application for Automatic Extension of Time to File U.S. individual income Tax Return*, for your 2018 tax return?

- A. Interest is not assessed on any income tax due if a Form 4868 is filed.
- B. Form 4868 provides the taxpayer with an automatic additional 8-month extension to file.
- C. Even though you file Form 4868, you will owe interest and may be charged a late payment penalty on the amount you owe if you do not pay the tax due by the regular due date.
- D. A U.S. citizen who is out of the country on April 15 will be allowed an additional 12 months to file as long as “Out of the Country” is written across the top of Form 4868.

SU1-Q14

Answer (C) is correct.

出題トピック: 申告期限と延長

Point !	<p>暦年課税年度の場合 4/15 ※土日祝日の場合は翌営業日</p> <p>※納税者が課税年度の途中で死亡した場合も、死亡日までの所得を計算して申告義務があれば申告が必要となり、個人所得税の申告期限は上記と同様である。</p> <p>※Form1040NRを提出する非居住外国人 (nonresident alien)の申告期限は、暦年課税年度採用の場合、6/15となる(但し、給与所得が源泉徴収の対象となっている非居住外国人の申告期限は原則の4/15までとなる)。</p>
Due Date 申告期限	
Extension 延長	<p>Form 4868を提出するまたはクレジットカードで必要な納税を済ませることにより、申告書の提出期限を6カ月延長可(暦年の場合 10/15まで)。 ※税の納付期限は延長されない。</p> <p>※特例:4/15の時点で米国外に居りなおかつ事業の本拠地が米国外にある米国民及び居住者は、2カ月自動延長となる(6/15まで)</p>

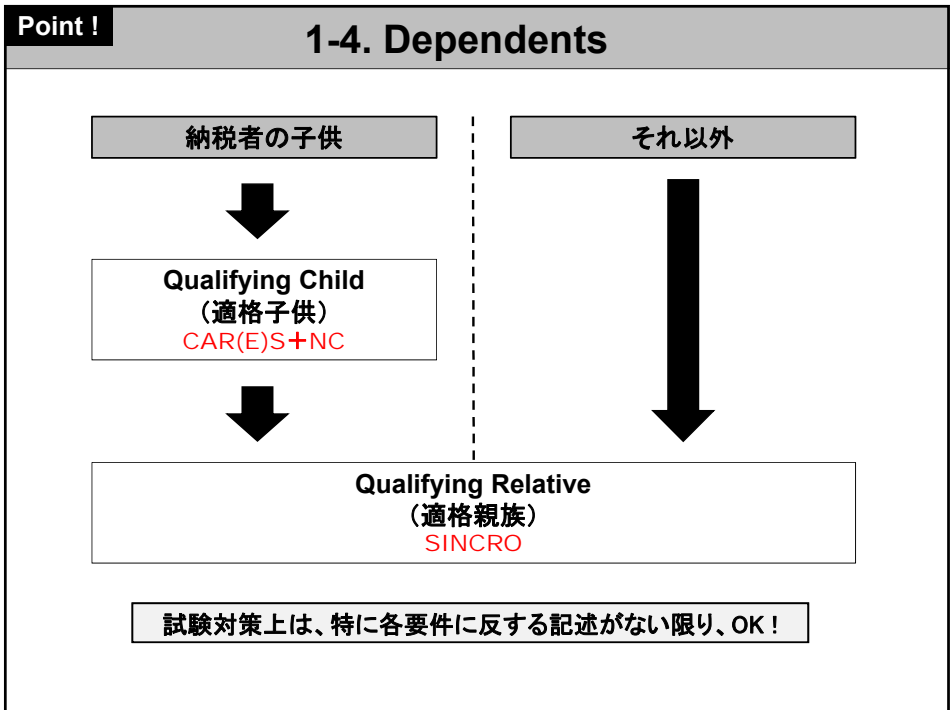
<ポイント解説> 選択肢(A): 税の納付期限は延長されないため、4/15の時点で未納税額がある場合には、未納税額に対し「延滞納付に関する罰則金 (Failure-to-Pay Penalty)」および「延滞利息」が課せられる。∴誤り。

選択肢(B): 8ヶ月ではなく、6ヶ月である。∴誤り。

選択肢(C): 上記解説より、正しい。

選択肢(D): このような規定はない。∴誤り。

Point !	
1-4. Dependents	
税法上の扶養家族	
納税者は、以下いずれかの規定の要件を満たした者を、扶養家族として申告することができる。 ※納税者は、配偶者を扶養家族として申告することはできない。	
Qualifying Child (適格子供) CAR(E)S+NC	Qualifying Relative (適格親族) SINCRO
①Close Relationship Test【関係の要件】 納税者の子供(※継子、里子、養子、兄弟姉妹、 継兄弟姉妹、孫を含む)であること。 ②Age Limit Test【年齢の要件】 課税年度末の時点で19歳未満、または24歳 未満のフルタイムの学生であること。 ③Residency Requirement【同居の要件】 半年超の期間、納税者と同居していること。 ※学校・休暇・入院などによる“ 一時的な別居 ”期間 については同居していたとして扱う。 ④Eliminate GI Test =所得制限ナシ。 ⑤Support Test【扶養の要件】 その子供が自身の生活費の50%超を負担して いないこと。※納税者自身が援助している必要はない。 + ⑥Not Joint Return【夫婦合算申告の要件】 ⑦Citizenship Test【国籍の要件】	①Support Test【扶養の要件】 納税者が扶養家族となる者の生活費の50%超 を負担していること。 ※生活費には、衣食住、 医療費、教育費、交通費等が含まれる。 ②Gross Income Test【総所得の要件】 扶養家族となる者のGIが\$4,150(2018)未満で あること。※非課税所得はこの計算には含まれない。 ③Not Joint Return【夫婦合算申告の要件】 扶養家族となる者がその配偶者とMFJしていな いこと。※但し、全額還付目的の場合には構わない。 ④Citizenship Test【国籍の要件】 扶養家族となる者が米国民または 米国、カナダ、メキシコの居住者 であること。 ⑤Relationship Test【関係の要件】 扶養家族となる者が3親等以内の親族(※姻戚、 元姻戚も含む)である、 OR 1年間同居していること。



SU1-Q19**1-4. Dependents****B**ランク

In meeting the “gross income” test for claiming his father as a dependent, Doug considered the income received by his father. This income included gross rents of \$4,000 (expenses were \$2,000), municipal bond interest of \$1,200, dividends of \$1,400, and Social Security of \$4,000. What is Doug’s father’s gross income for dependency test purposes?

- A. \$3,400
- B. \$5,400
- C. \$9,400
- D. \$8,600

SU1-Q19**Answer (B) is correct.**

出題トピック: 扶養家族: SINCRO (総所得の要件)

<ポイント解説>

“Qualifying Relative”における総所得の要件は、扶養家族となる者のGIが\$4,150 (2018)未満であること。

※非課税所得(例: 非課税の地方債利息・社会保障給付)はこの計算には含まれない。

※不動産賃貸所得については、経費を差し引く前の賃貸収入をこの計算に含める。

自営業者の事業所得についても、経費(売上原価を除く)を差し引く前の事業収入をこの計算に含める。

父親のGI = \$4,000 gross rent: 賃貸収入 + \$1,400 配当 = **\$5,400**

∴ **選択肢(B)**が正解となる。